

農家の苦労実感

千葉科学大学
環境専攻の学生ら

【ちばみどり】銚子市の千葉科学大学で環境について専攻している学生たちはこのほど、旭市塙地区の水田で稲刈りを行った。水田は、(株)うなかみの大地が交流事業の場として管理提供しているもの。春から田起こし、田植え、草取り、ヒエ抜

きと作業を行い、収穫を迎えた。

学生たちは、JAちば



参加した大学生たち

みどり営農センター海上の営農振興担当職員の指導を受けてきた。参加した大学生の中島慎平さんは「農薬を使わない栽培の生産性、機械を使うことによる効率の差、これら農家の抱える問題を考えさせられた」と話した。

(株)うなかみの大地の石毛正敏取締役は「高齢化と若者の農業離れが深刻化している中、若者が農業に興味を持って頑張ってくれた」と話した。